

大学生1万円超負担増

全国大学生生活協同組合連合会（全国大学生協連）はこのほど、「2021年度保護者に聞く新入生調査」概要報告を発表しました。教科書・教材、パソコンの購入費用が1万円以上増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、オンライン授業のために学生・保護者の負担が増加したことがうかがえます。

2021年度全国大学生協連調べ

調査は、新型コロナ禍定と違って困ったことで1年以上が経過した、は「教科書や教材、パソコンなどの費用が高かった」が36・2%で最も多く5月に実施しました。それによると受験から入学までの費用面で「予

オンライン授業 購入費かさむ

の調査で追加された「オンライン授業のために購入するものが多かった」が11・4%となっていました。そのため教科書・教材購入費は、国公立・私立合わせての平均額が21万4900円（20年度比1万1100円増）となりました。19年度の平均額は19万1000円で、コロナ禍に入ってから2年連続で1万円以上増加しています。

一方、大学入学共通テスト開始やコロナ禍での移動制限による影響で、受験学部数が減少し、

「受験のための費用」が、20年度に比べて国公立・私立を問わず減少。国公立は6万8000円（20年度比4200円減）となり、私立は4万5000円（同1900円減）になりました。

全国大学生協連の担当者、共通テスト導入直前の20年度は大学入試のシステムが変わることに不安を感じ、現役合格を目指す人が多い傾向があったが今年度はその傾向が下がったことが関係しているのではないかと説明しました。

同調査は07年度から毎年4～5月に新入生の保護者を対象に実施、21年度は126大学生協の1万8907人が回答しました。